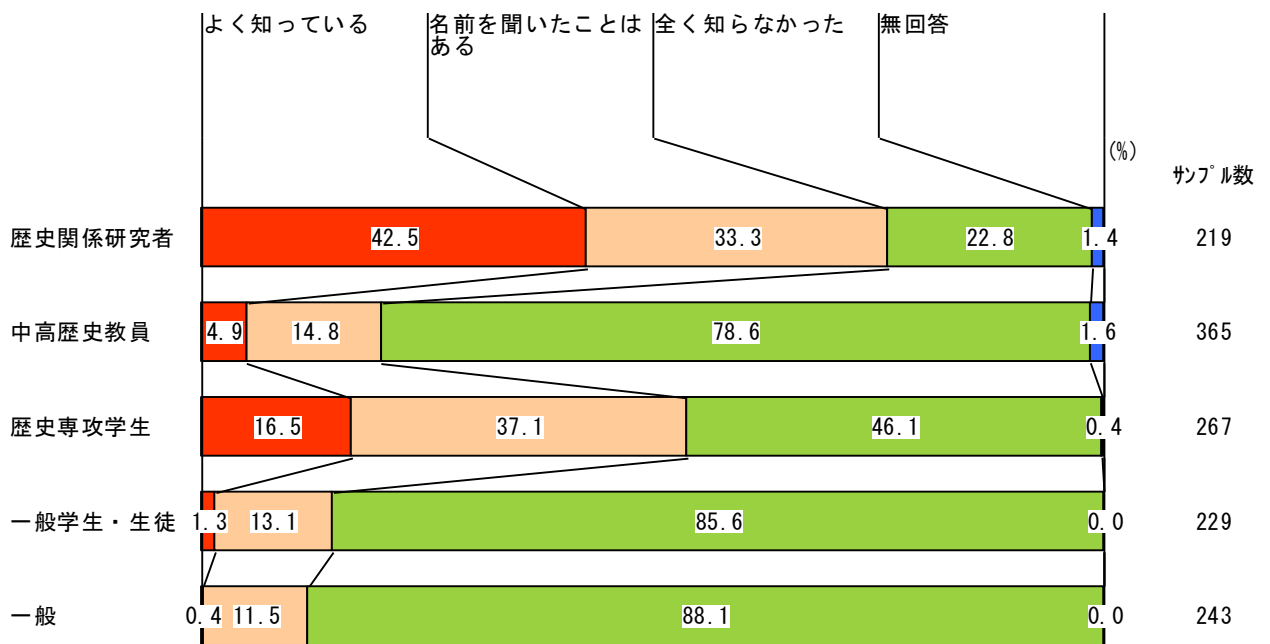


アジア歴の認知度と歴史への関心についてのアンケート調査（20年3月）
（一部抜粋）

アジア歴史資料センターの認知状況

『認知』（「よく知っている」、「名前を聞いたことはある」の合計）割合は、歴史関係研究者で 75.8%、歴史専攻学生で 53.6%と高い。しかし、中高歴史教員では 19.7%と低く、一般学生・生徒で 14.4%、一般で 11.9%となっている。

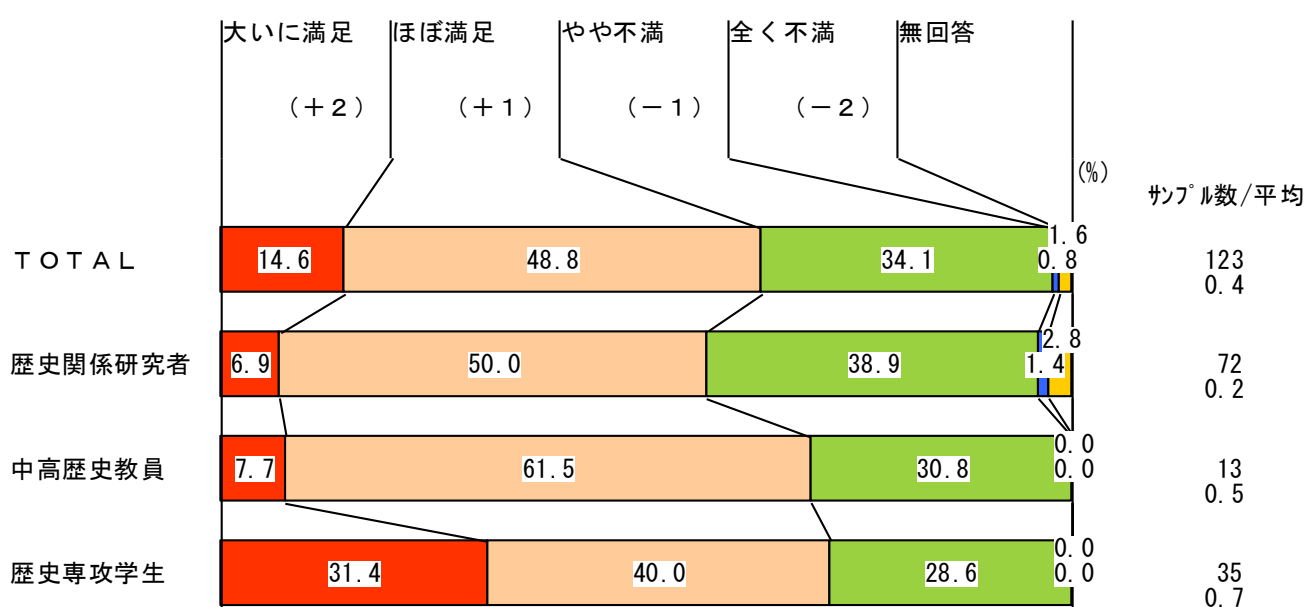
図表 2-2-1 アジア歴史資料センターの認知状況



デジタルアーカイブの満足度

アジ歴のデジタルアーカイブ利用について、『満足』（「大いに満足」、「ほぼ満足」の合計）割合は、歴史専攻学生で 71.4%と高く、中高歴史教員で 69.2%、歴史関係研究者で 56.9%となっている。歴史専攻学生では、「大いに満足」が 31.4%を占め、歴史関係研究者、中高歴史教員より満足度が高い。

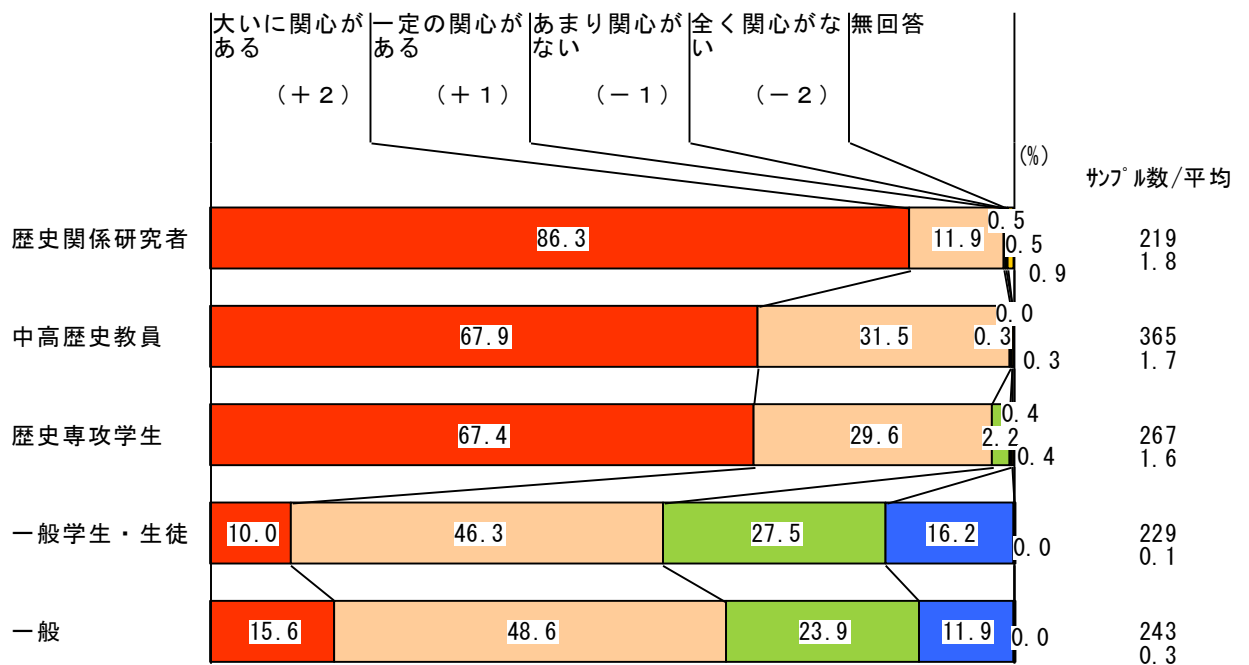
図表 2-3-3 デジタルアーカイブの満足度



歴史についての関心度

歴史についての『関心がある』（「大いに関心がある」、「一定の関心がある」の合計）割合は、歴史関係研究者で 98.2%、中高歴史教員で 99.4%、歴史専攻学生で 97.0%といずれも高い。一般学生・生徒では『関心がある』割合は、56.3%、一般では、64.2%とともに半数以上を占めている。

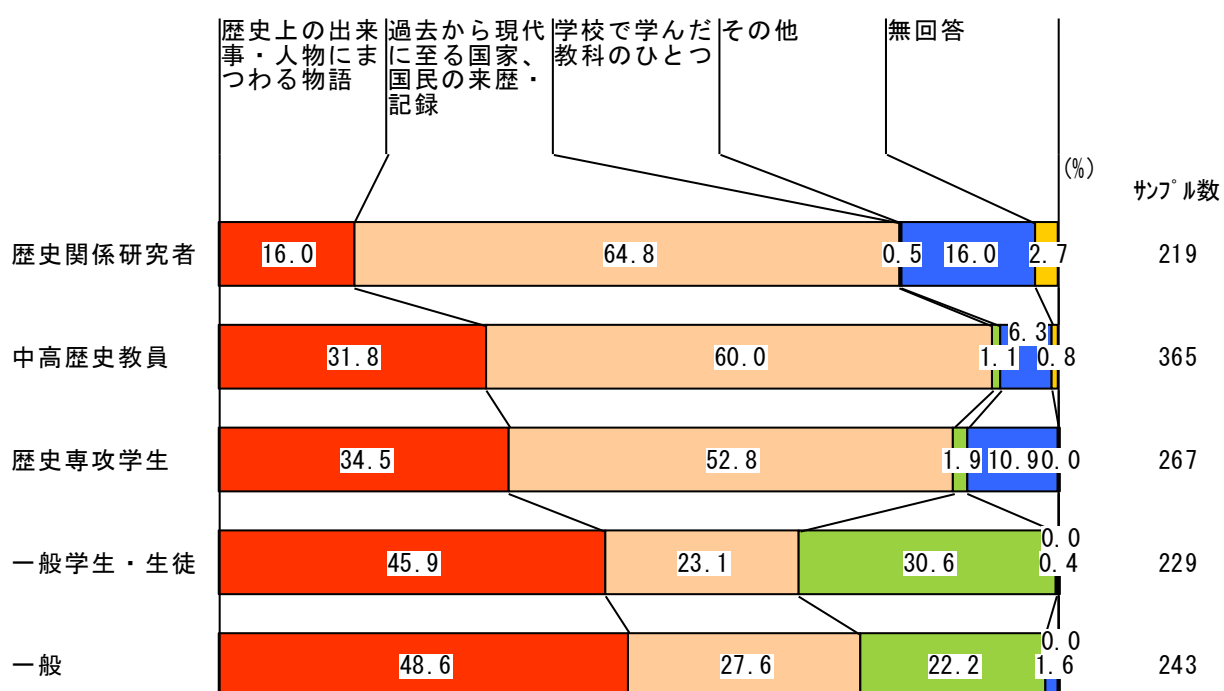
図表 2-6-1 歴史についての関心度



歴史のイメージ

「歴史」のイメージに最も近いものとして、「過去から現代に至る国家・国民の来歴・記録」が、歴史関係研究者で 64.8%、中高歴史教員で 60.0%、歴史専攻学生で 52.8%と半数以上を占めている。「歴史上の出来事・人物にまつわる物語」は、一般学生・生徒で 45.9%、一般では 48.6%と半数近くみられる。

図表 2-6-5 歴史のイメージに最も近いもの

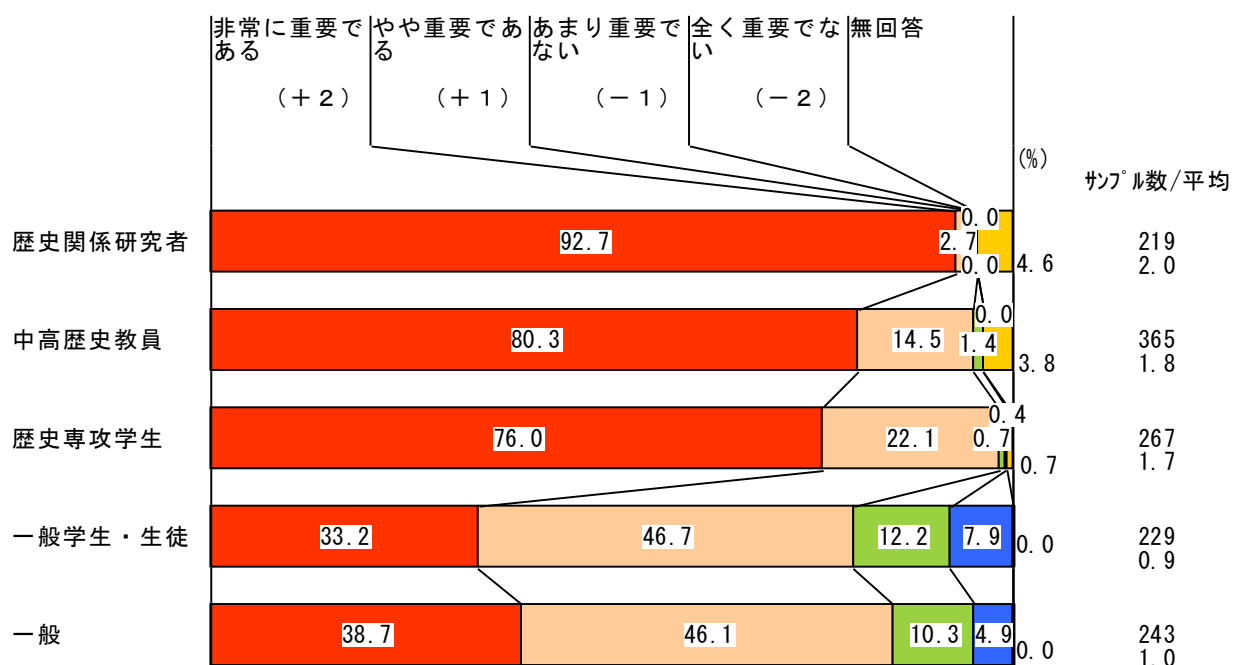


歴史資料を記録・保存し一般に公開することの重要度

歴史上の出来事・人物に関連する資料などを記録・保存し、広く一般に公開することについて、『重要である』（「非常に重要である」、「やや重要である」の合計）割合は、歴史専攻学生で 98.1%と最も高く、歴史関係研究者で 95.4%、中高歴史教員で 94.8%と、いずれもほとんどの人が重要と考えている。一般も 84.8%、一般学生・生徒で 79.9%と、いずれも8割を占めている。

『重要である』割合は、ユーザーで 96.8%、ノンユーザーで 90.6%といずれも高い。

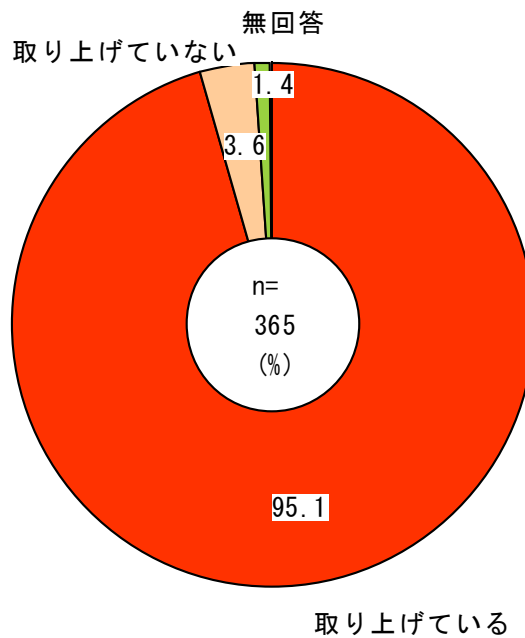
図表 2-7-8 歴史資料を記録・保存し一般に公開することの重要度



「太平洋戦争」の授業での取り上げ状況 【中高歴史教員】

「太平洋戦争」について、授業で「取り上げている」が95.1%である。
 しかし、授業でアジア歴史資料センターのデジタル資料を利用したことがある人は1.7%（6人）であり、非常に少ないことから、教材としての利用者層を開拓、拡大することが必要である。

図表 2-8-1 「太平洋戦争」の授業での取り上げ状況



図表 2-8-2 アジア歴史資料センター デジタル資料の利用状況

